

独断

注目商品

REVIEW

機械に合わせて作業を変えれば 人も機械も最大限に活かせる

収穫機 ほうれんそう根切機



SH-60 希望小売価格：837,900円（税込）

■お問い合わせ
株式会社広洋エンジニアリング
〒350-0142 埼玉県比企郡川島町大字上屋敷78
TEL：049-291-0700
<http://www.koyoeg.co.jp>

機械で刈り倒し、人が拾い集める
(株)広洋エンジニアリングが開発したホウレンソウ向けの根切機は大きく分けて4つのタイプがある。トラクタ用アタッチメントで振動式のTO-90、汎用管理機用に大径タイヤを取り付けた畦盛栽培の畦を跨ぐタイプのTB-120、乗用管理機用のTBR-12として自走式でオフセット仕様のSH-60である。いずれもホウレンソウの根を複数条一度に切断する。

露地栽培でもハウス栽培でも、人力に頼る手収穫の体系が今でも多く行なわれている。鎌を持つての袋詰め収穫作業は、60坪のハウス1棟を3人で2日半かかる。この作業に自走式のSH-60を導入した場合、ホウレンソウの根を切断する作業だけならわずか30分で終わる。鎌を持たずに両手を使って袋詰め収穫をするのに2人で2日半程度かかるので、実際には拾い集める作業速度に合わせての刈取り作業となる。つまり、労働力としては1人分の作業が

軽減されることになる。
機械価格は燃料代を合わせてもパート労働者1人の1年分より安価なため、2年目以降は使えば使うほど利益に貢献することになる。

機械を最大限に活用する工夫

ホウレンソウは生食用か加工用か、あるいは地域によって、栽培品種や作付様式が異なる。なかでもハウス栽培の場合は隅から隅まで隙間なく密植するように播種する体系が慣習化している。このように全面に播種したハウスに機械を導入しようとする、ホウレンソウを踏んでしまったり、入口付近では横に走って通路をつくったりする作業手間が発生しやすい。



ハウスの中央部に管理通路を設けた作付体系。機械化作業がしやすく、歩留まりが上がる。

そこで、同社は左図のようなハウスの中央部に通路を開けた作付体系への変更も合わせて提案している。また、これとは別に、栃木県ではハウスの3ベッド方式（9〜10条/ベッド）に乗用管理機用の1・7m幅の広幅タイプを導入する動きがある。機械を導入する目的をたずねるといまだに「省力化」と答える方が多いが、労働が楽になるかという発想は業者としての視点による。経営がどう変わるのかまで考えると、これまでのやり方のまま機械化をするよりも、機械を最大限に活用するための作業体系に変更した方が投資効果を得られることもある。ハウスや圃場と機械、労働力など持ち得る資源を最大限に活かして利益率を上げるのか、改めて機械化を検討する際に考えていただきたい。（昆吉則）

仕様表

機体寸法	全長1,330×全幅1,230×全高830mm
クローラ	幅160×接地長650mm
機体重量	160kg
走行動力	3.4PSエンジン
作業動力	12Vバッテリー×2
走行性能	前進：0.25～4.9km/h（6段）
	後進：0.3～2.3km/h（2段）
根切部	刃幅：600mm（左右揺動両刃式）
	深さ：-15～35cm